

【折々の季語 132 卯の花】

## うきことばかり卯の花に物言ふも

田中裕明（『花間一壺』）

卯の花は、一昔前は庭木によく植えられていた。この頃はとんとみかけない。むしろあまり人通りのない山道などで見かけることが多い。日蔭の小暗いところに咲いている。その姿と「うきこと」は似つかわしい。

後年、裕明は、

**海亀の耳のあたりにものをいふ**

とも詠んだ（『先生から手紙』）。卯の花に物を言ったり、海亀に物を言ったり、やっぱりちょっと浮世離れた人だ。